

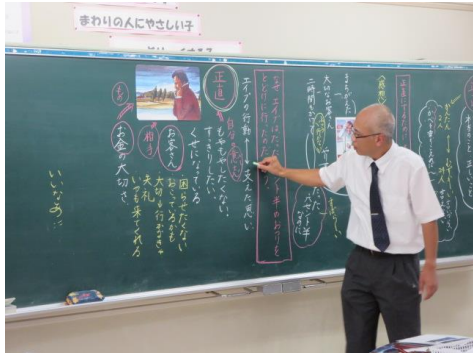
けんしゅうしましよ

5号
H28. 9. 13
文責 小林

8月29日（火）鳥取市立世紀小学校の木原一彰教諭が来校され、「問題解決的・道徳の学習時間における発問構成の在り方」といった内容で模擬授業や講演をしていただきました。
3年1組の子ども達と行った「六セント半のおつり」を教材とした道徳の授業では、一人一人の子ども達が生き生きとした表情で学習に取り組み、多様な考えの中「正直」について道徳的価値を深めることができました。発問の仕方、子どもの発想を引き出す補助発問、子どもの発言をつなぐ言葉かけなどたくさんのことを学ばせていただきました。

授業後の話し合いより

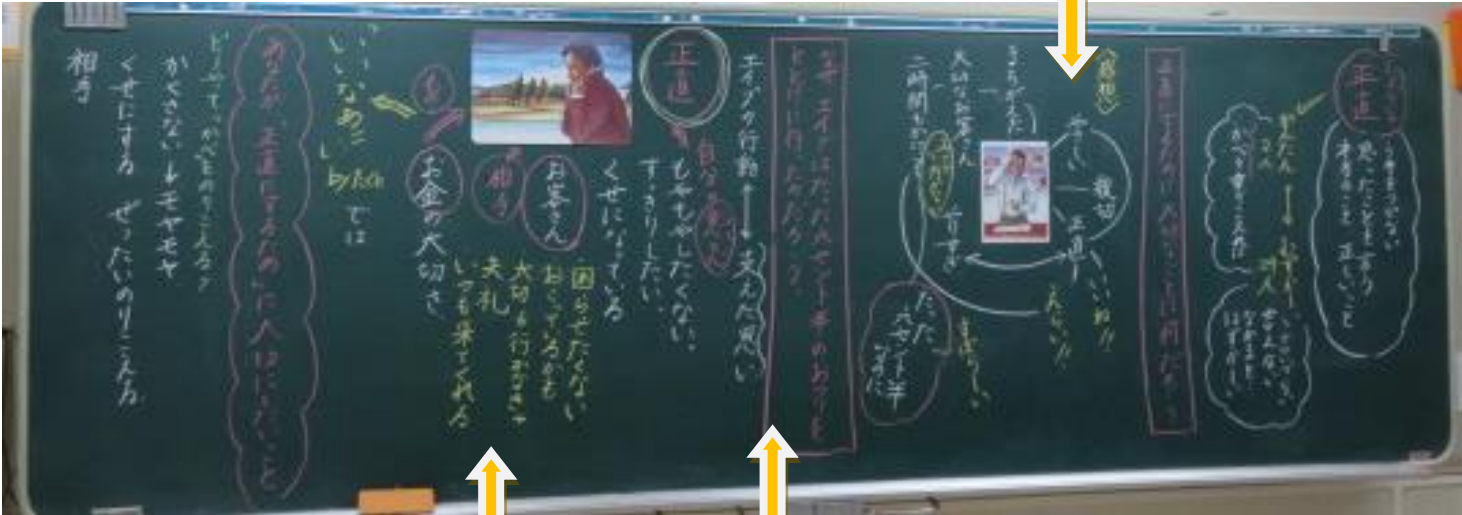
- 問題解決的な学習展開の流れ
- ◎教材の問題把握（発問及び活動）
- ◎解決の提案（発問及び活動）
- ◎問題解決の議論と応用（様々な解決策の再検討）
- ◎道徳的問題の結論（道徳的価値の自覚と深化）



【感想発表】

- ・ふつうはいかないよ。
- ・やりすぎだよ。

こういった感想を大切にしながら問題を把握し、日常生活にも繋げていく
→中心発問へ



【立場・見方を整理】

- ・自分を大切にする
- ・相手を大切にする
- ・物を大切にする

今回整理した視点はこの3つであったが、子ども達の考えを整理することにより多面的・多角的に捉えることができる★本校でいえば、切り返しの発問以降の場面

【対話的な学習】

- ・個別の状態での問題解決
「自分の考えをもたせる」
ノート（書いて）→自由交流（広げる）
- ・集団での問題解決
「子ども達の考えを整理する」そのうえで大切なのは、おとすところはきちんとおとす。★本校でいえば、中心発問以降の場面



道徳の授業づくりで大切にしていること

- ①教材に記された問題をふまえること
- ②内容項目に示された理想像と児童の実態を繋ぐこと